

「OKINAWA To 沖縄」プロジェクト ボリビアのオキナワ移住地で生産した 全脂大豆を沖縄県に輸出

沖縄県出身者が開拓したボリビアのサンタクルスにあるオキナワ移住地のコロニア沖縄農牧総合協同組合（CAICO）が生産した全脂大豆（油脂を含んだまま熱処理後に粉碎した大豆粉）が、今般、沖縄県に輸出されることになった。

全脂大豆を積んだコンテナは2月5日にチリから船積みされ、台湾の基隆港を經由して3月中旬に石垣港に到着する。全脂大豆は沖縄県の石垣島を拠点に石垣牛等の生産を手がける「農業生産法人有限会社ゆいまー牧場」で畜産用飼料として使用され、その結果をもとに他の牧場にも広げたいという計画を有している。

この事業は、「ゆいまー牧場」の金城利憲・代表取締役が、JICA主催の「第9回中南米日系社会との連携調査団」（2020年2月）に参加したことをきっかけに、南米との経済交流を行いたいという強い意思を持ち、旧知の「ISHIMA S. R. L（株伊島）」の島袋正克・代表取締役（在ボリビア）にCAICOとの商談及び石垣島までのロジスティクスを依頼して実現したものの。

ボリビアでオキナワ移住地が開拓されてから今年で68年の歳月が経過。これまでオキナワ移住地と母県の沖縄とは文化的交流は盛んであったが経済的な交流はなく、移住者の生産物が日本へ本格的に輸出されたことはなかった。今回の全脂大豆輸出は移住者たちが生産した製品が、ボリビアのオキナワから日本の沖縄に初めて輸出されるという歴史的なものである。

金城氏と島袋氏は、この商談が成功すれば全脂大豆の輸出だけではなく「OKINAWA To 沖縄」プロジェクトとして移住者たちが生産した他の生産物も輸出できる発展的な可能性を秘めていると話す。また、2022年に沖縄県で開催される「世界のウチナーンチュ大会」でも沖縄県人の繋がりの成果としても発表したいと考えている。

【参考】

「農業生産法人有限会社ゆいまー牧場」（金城利憲・代表取締役 沖縄県石垣島）

<https://www.yuimarlfarm.com/>

石垣島を拠点に、牛や豚の生産、精肉・食肉加工・レストランも手がける。石垣牛ブランドの確立に大きな貢献を果たすとともに、在来種の血統にこだわった石垣島アグー（沖縄在来の幻の黒豚）の生産などにも精力的に取り組んでいる。

「ISHIMA S. R. L」（島袋正克・代表取締役 ボリビア多民族国オキナワ）

<https://ishima01.jimdofree.com/>

ボリビアにおいて「Made by Japanese 日本人が造りました」を企業理念に、オキナワ移住地で生産し

たサトウキビを原料とした黒糖、紅塩等を生産輸出している。同社の黒糖は奄美大島の黒糖焼酎にも使われている。また、2020年には、同社のサトウキビを原料にした Chica 酒がボリビア国営ビール会社から発売された。

「JICA 中南米日系社会との連携調査団」

<https://www.jica.go.jp/regions/america/support.html>

2013年から、移住先国で活躍する日系人をパートナーに、日本の民間企業と連携して、現地の開発課題の解決に貢献し、さらに民間企業が中南米への事業展開を実現するといった互恵的な協力の可能性を探ること等を目的として調査団を派遣している。2020年2月の第9回目となるブラジルへの派遣には「ゆいまーる牧場」を始めとして13社が参加した。(なお、当初、ボリビアにも派遣予定であったが、大統領選挙に伴う政変により中止された。)



ボリビア・オキナワ移住地



コロニア沖縄農牧総合協同組合 (CAICO)



CAICO が生産した全脂大豆



トラックへの荷積み状況

以上

お問い合わせ

独立行政法人 国際協力機構 (JICA) ボリビア事務所

所長 小原 学 Ohara.Manabu@jica.go.jp +591-6972-1637 (WhatsApp での連絡可)

次長 秋山 慎太郎 Akiyama.Shintaro@jica.go.jp +591-6972-1639 (同上)

独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 沖縄センター 市民参加協力課 : 上原、庄司

TEL : 098-876-6000 E-mail : Uehara.Yumiko.2@jica.go.jp